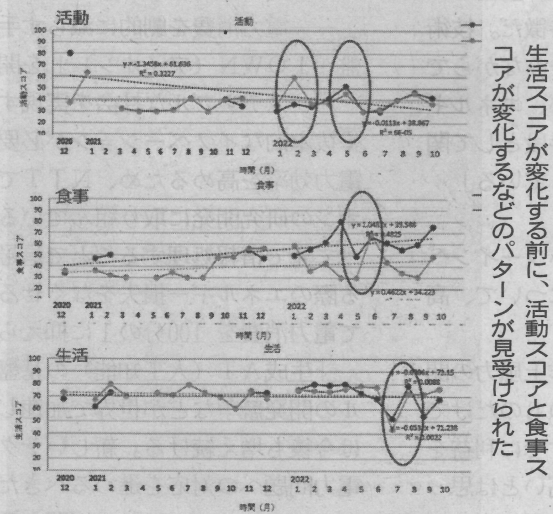


日々の家電の電力使用データから住民の健康状態を見える化し、体調変化に早期に気付く。こうしたシステム開発に取り組んでいるのが、奈良県立医科大学発スタートアップのMBリンク(奈良県橿原市)だ。同社は北海道沼田町で実証実験を実施した。2023年内に長野県売木村や福島県伊達市で新たに検証を始める。病気の予防や医療費削減につながるシステムとして実用化を目指す。

MBリンクは東電グループのエネルギーウェル(東京・港)と共同で、19年から約3年間にわたって北海道沼田町の主に50〜60代の男女25人を対象にシステムを試行した。自宅のエアコンや電子レンジ、洗濯機といった家電の電力使用データから生活パターンを推計し、数値の変化をベ



分電盤内に設置された電力センサーを活用し、家電の使用状況をネット上で把握できる



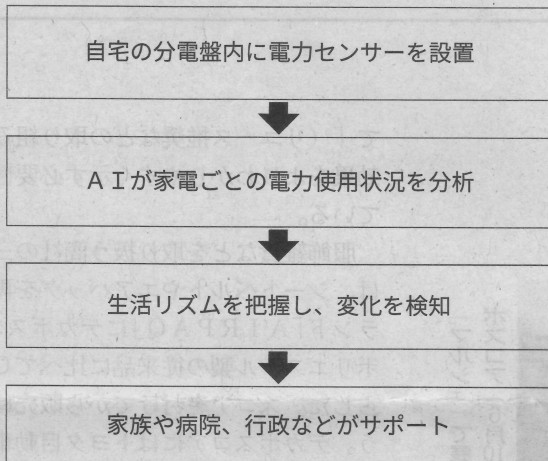
生活スコアが変化する前に、活動スコアと食事スコアが変化するなどのパターンが見受けられた

## 家電の使用変化で健康把握

ただで済む。家電のメーカーが消費電力の波形を人工知能(AI)で分析する。AIが割り出した家電ごとの電力使用量データをリアルタイムで見る。必要設備は使用中の家電のほかに、電力センサーとWi-Fi環境を整備する

## 奈良県立医大発の新興が実験

### 電力データによる見守りの主な流れ



IMで見ることができ、本人が希望すれば離れた場所にいる家族もデータを見守ることができる。MBリンクの梅田智広社長は「医師、前月や前年同月と比較して、認知症などの治療を町で高齢者を対象に本格的に移行するといった使い方が想定できる。実際、沼田町木村や福島県伊達市で新たな実証実験では大きくライフスタイルスコアが低下

しやすくなる。ライフスタイルスコアが低い状態が続いていた人は、エアコン・テレビなどを「生活スコア」、電子レンジ・冷蔵庫などを「食事スコア」、洗濯機・掃除機などを「活動スコア」として主に3つに分類する。周期性や時間帯を鑑みて、生活レベルを100点満点で評価する。

例えば、これまで規則正しく生活していた人が「深夜に冷蔵庫を開けるようになった」「掃除機を使う頻度が減っている」など生活パターンに異常が見られた際に早期の医療介入につながる。年内に北海道沼田町で、認知症などの治療を町で高齢者を対象に本格的に移行するといった使い方が想定できる。実際、沼田町木村や福島県伊達市で新たな実証実験では大きくライフスタイルスコアが低下

(鬼頭めぐみ)